

景況DI値は回復傾向へ転換。燃料高騰・資材不足の懸念は残るがコロナ感染の減少に経済回復の期待。



概況(全体)

11月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが5.1%(前回調査5.0%)、「悪化」が47.5%(同51.7%)で、業界全体のDI値は-42.4となり、前月調査と比較し4.3ポイント回復した。

全国及び東北・北海道ブロックは新型コロナウイルス感染症の沈静化により、経済活動への影響は売上高を中心に改善傾向にある。しかし、原材料の高騰や部品不足、そして新たな変異株の感染拡大等、多くの事業者は今後の景況感に慎重な見方をしている。

業界別の状況

製造業は、業況が「好転」したと回答する数が不変で、「悪化」したと回答する数が微減した。

また、非製造業においては、「好転」及び「悪化」したと回答する数が減少し、「不変」と回答する数が増加した。

業界全体のDI値は回復傾向に推移している。燃料及び原材料の高騰、資材不足の問題が継続している中、前年同月比で「悪化」したとする企業が減少していることから、ウィズコロナの社会仕様に順応した企業が増えていることが考えられる。

全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-42.4	-22.3	-24.4
製造業	-34.8	-17.8	-14.9
非製造業	-47.2	-25.8	-29.6

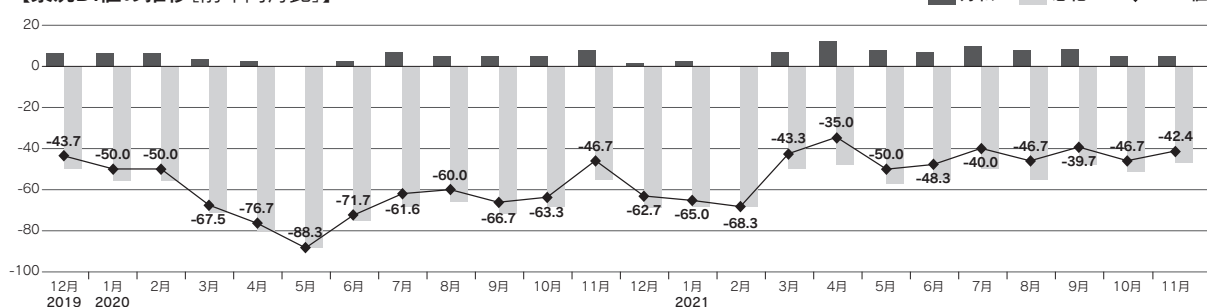
景況天気図

項目 業種	項目						
	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☁☁☁	☂	☁☁☁	☁	☂	☁☁☁	☁☁☁
非製造業	☁☁☁	☂	☁☁☁	☁	☂	☂	☂

【凡例】
 ☁☁☁ 雷雨 -30以下
 ☂ 雨 -30超 -10未満
 ☁☁☁ 曇り -10以上 10未満
 ☀ 晴れ 10以上 30未満
 ☀☀☀ 快晴 30以上
 【天気図の見方】
 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

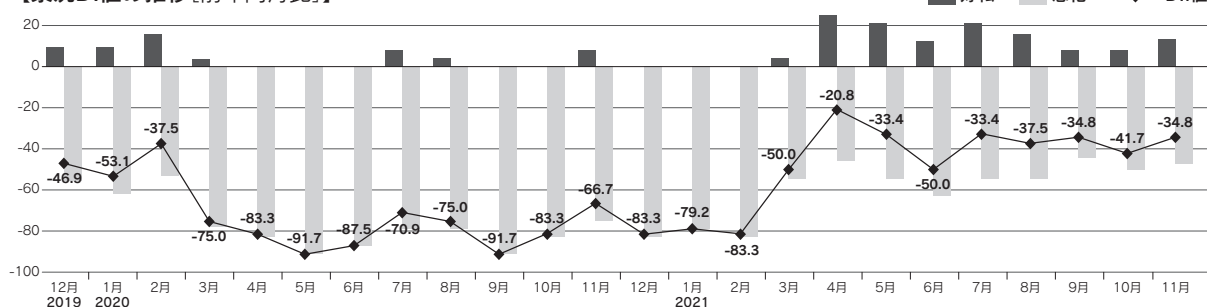
業界全体

【景況DI値の推移[前年同月比]】



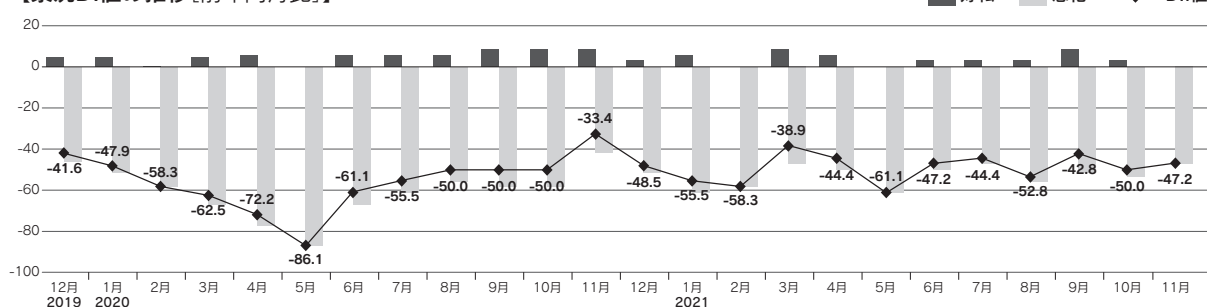
製造業

【景況DI値の推移[前年同月比]】



非製造業

【景況DI値の推移[前年同月比]】



●製造業

(回答数:23名 回答率:95%)

【食料品 (パン)】

売上に関しては前年以下となった。10月に一部商品を値上げしたことがその原因の一つである。原材料の値上がりのため、1月からは本格的な値上げを予定していることから、更に売上が厳しくなるものと予想される。

【食料品 (精穀・製粉)】

11月後半に入り若干売上は回復したが、前半が低調であったため、全体では前年対比マイナスとなった。また、輸入原材料の納期遅延や価格上昇が顕著になってきている。

【繊維工業 (繊維)】

受注状況は若干持ち直しているがコロナ禍前の状況には程遠い。人件費をはじめとした工場運営コストは増加しているが、加工賃は上がり採算確保が困難な状況である。生産力を上げたいが外国人技能実習生の帰国が先行し、新規の実習生が入国できないため、工場の人員が減少し生産力は低下している。

【木材・木製品 (一般製材)】

製品販売量は前年比(4月～11月)139%、製品販売額は前年比(4月～11月)181%と増加している。8月の製品価格の値上げの効果が出ている。外国産材の輸入減少が続いていることから、年内は国産材の需要は堅調と想定している。

【印刷 (印刷)】

緊急事態宣言が解除され消費動向に動きが見え始めたが、まだ厳しい状況は継続している。仕事が少ない状況での安値受注が引き続き発生している。また、1月から各種印刷用紙・材料等の値上げが実施されることから、価格への転嫁を含め、組合員企業の経営は厳しさが増している。

【鉄鋼・金属 (鉄鋼)】

鉄などを含め副資材などの原材料価格が上昇し、原油高騰の影響で梱包資材や運賃まで上昇している。コスト増加分を価格転嫁できる企業は利益を維持しているが、転嫁できていない企業は利益率が下降傾向にある。

【一般機器 (金属加工)】

受注は相応にあるものの、材料(鋼材)の高騰(商品によっては20%の値上げ)により、収益面が悪化している状況にある。

【その他の製造業 (曲げわっぱ)】

WEB等を活用して営業を展開している企業は、売上が改善されている。

●非製造業

(回答数:36名 回答率:100%)

【卸売業 (古紙)】

11月の古紙の回収量は、前年同月比で-10.2%であった。重複回収日が少なかったことも要因であるが、雑誌等が15.4%減少している。日本における昨年のコミック売上は過去最高の6,126億円となったが、その内、紙コミックが44%でその他は電子コミックでの売上である。消費生活でもペーパーレスが浸透してきている。

【小売業 (みやげ品)】

令和元年の11月売上と対比すると令和2年11月はGotoキャンペーンの効果もあり91%であった。今年の11月は緊急事態宣言が解除されたが来客は少なく、令和元年対比で45%、令和2年対比(前年同月比)で49%であった。

【小売業 (石油)】

人件費の増加だけでなく灯油配達の人員不足もあり、冬場における灯油の安定供給が厳しい状況である。なお、企業が職業安定所へ求人を出しても応募がない状況である。

【商店街】

組合加盟飲食店は、コロナウイルス感染拡大の警戒レベル引き下げにより、年末に向けての予約が入り始めている。厳しい状況には変わらないが、各店舗では集客を目指した活動が盛んになっている。組合経営の駐車場も夕方からの利用が微増し、昨年対比で売り上げが多少増加している。他の小売りは、依然として集客も売上も回復しないまま年末を迎え苦戦している。

【サービス業 (旅館)】

例年の11月と比較すると、悪い結果ではなかった。しかし、比較対象となる前年同月はGotoキャンペーンに支えられていたため全体的に数値が高く、結果として今年の11月の実績は低評価となった。また、県民割などは週末に利用の偏りがみられ、平日は苦戦傾向であった。

【サービス業 (自動車整備)】

自動車検査台数実績から見て、全体では前年同月比で4.1%の増加となった。内訳は登録車が2.5%の増加、軽自動車も6.1%の増加となった。

【建設業 (一般建設)】

資材高により想定した原価低減が見込めない状況である。今後の受注は、資材高を織り込んだ交渉と早期資材手当によるリスク回避が求められている。

【運輸業 (トラック)】

11月の輸送状況は、いづらか増加傾向であったものの低調に推移した。売上は、前月比・前年同月比ともに微増となっているものの利益は減少している。燃料価格の高騰を受け、利益は毎月悪化している。12月の燃料価格は、値上がりが落ち着く見込みとなっているが、依然として高値で推移していることから、収益や利益への影響が懸念される。

*DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。